

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101037
法人名	医療法人 ミネルワ会
事業所名	グループホーム ミネルワ
所在地	松山市衣山5丁目717-1
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの行事を行っている。 ・母体が病院のため、急変時は24時間体制で連絡、対応してもらえる。 ・歩行の時間、ラジオ体操の時間、口腔体操、シナプソロジー、ことわざや早口言葉を行っており、身体機能の維持向上や脳トレーニングに努めている。 ・写経、習字、計算プリントなど、個々のケースに合った活動をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は開設して2年を過ぎようとしている。毎日、午後の時間を利用して歩行訓練や立ち座り、腕の上げ下ろしなどを行い身体機能向上に力を入れている。居室はアール・デコ様式(幾何学的な近代建築)を取り入れ廊下より一歩中に入口を設置し出入りに配慮している。窓ガラスを透明にして外部との遮断を取り除き、格子戸にして家庭的な雰囲気を作り利用者とのコミュニケーションを大切に家庭の延長として穏やかに過ごせるように、建物の至る所に思い入れを感じることができる。また認知症の進行を遅らせる方法を追求したい、認知症の観点から地域に対する情報発信力を強めたいと意欲的である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ミネルワ	
(ユニット名)	睦月	
記入者(管理者)		
氏名	竹村 千秋	芳野真季
評価完了日	平成 28 年 2 月 19 日	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念の掲示を行い、職員や来所者にも確認できるようにしている。職員間で月一回のミーティング等でも意識できるように話し合っている。	
			(外部評価) 開設時に代表者を含めた準備委員会により「今一緒にいるこの時間を大切に・・・」という理念を作成し、利用者の「今まで」「いま」「これから」を共有し利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めている。毎月のミーティングで確認し合い、職員全員が共有して統一した方向性を持って実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 公民館行事への参加も積極的に行い、グループホームでの行事には、近所の方へ参加をお願いするなど、地域とのつながりを持つように努めている。	
			(外部評価) 自治会に加入して回覧板で地域の情報を得て、盆踊りや秋祭り、年末の餅つき大会などに参加して地域との交流を深めている。また、ボランティアによる三味線、日本舞踊、水軍太鼓、マジックショーを楽しんでいる。玄関前の道路沿いの掃除をしたり、散歩に出て地域の方とあいさつを交わし交流している。今後は出前講座を開き認知症の情報を発信していきたいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域住民に向けて認知症の理解を深めてもらえる機会づくりを行う計画が進まず、十分にできていない。広報誌の発行や運営推進会議に参加して頂く地域の方には、取り組み状況をお知らせしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議を行い、ホームでの活動内容や入居者の様子等を、写真等を活用し報告している。会議でいただく意見は職員間で話し合い、積極的に取り入れている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長、民生委員、介護保険課職員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て開催している。事業所から利用状況や活動報告を行い、それらに基づいて意見交換している。職員も交代で参加し転倒や打撲について報告し意見をもっている。</p>	<p>運営推進会議は定期的開催されているが参加者が固定化されている。多方面からの参加や多数の家族と地域住民が参加し、積極的な意見交換ができるよう取組みに期待する。また認知症に関する情報を地域に発信していきたいと考えており、議題を検討し実践できるような取組みに期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に参加された際は、行政の担当者と話す機会をもち、相談できる関係づくりに努めている。</p> <p>(外部評価) 介護保険課職員と地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に参加し情報交換を行っている。生活福祉課職員は入居に関しての相談を行い、入居後の看取り対応などについて話し合っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 勉強会やミーティング等で、身体拘束の理解を深めている。玄関だけでなく、フロアへの出入り口も施錠はしていない。ベッド臥床時に転倒・転落の危険性がある方には、センサーマットを使用している。必要に応じて衝撃吸収マットをベッド横に敷く場合もある。</p> <p>(外部評価) 身体拘束については入職時に研修を受ける機会を持ち、また外部研修に参加して禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して、職員全員で身体拘束をしないケアを実践している。ことば遣いや名前の呼び方についても、信頼関係ができた上で職員間で検討することとしている。新聞に掲載されたあつてはならない福祉関係者の事件記事について他人事ではないどこでも起こりうることとして話し合っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待については、十分な理解ができるように、申し送りやミーティング等で職員間でよく話し合っている。見過ごしや事前に防げるように注意をはらっている。 研修も行い、参加できなかった職員へは研修資料を回覧し理解ができるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 新人研修では行っている。月一回のミーティングとホーム内研修の際にとりあげ、制度の理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には十分な説明を行い、その都度質問に答えるようにしている。改定等があった場合は、文書で説明を行い、不明な点については、面会時や電話で対応するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会や電話、運営推進会議等で、家族の意見や意向を確認している。また、本人へは日常会話や関わりの中で意向を確認している。意見があった場合は内部で話し合い、意向に添うように努力している。家族会を開催し、家族間の交流も行っている。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中で意見や要望を把握し、家族には面会時に声をかけて利用者の生活の様子や体調などを報告するとともに意見や要望を聞いている。聞き取った内容はミーティングで報告し職員間で共有している。年に1回、家族会を開催し家族間の交流や意見や要望を聞く機会としている。今後は避難訓練に合わせて家族会の開催を検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 施設長・管理者は、リーダーや職員とのコミュニケーションをとり、関係づくりに努めている。ミーティングや個別の面接を行い、職員の意見や提案を聴くように努力している。実際に運営に反映させている。	
			(外部評価) 毎月、全体会やユニット会を開催し業務内容やケース内容について話し合っている。職員からの提案は、一定期間実施し評価して改善策を検討するなど積極的に取り入れている。内容によっては理事長や事務長に相談することができる。職員が安定して業務に就くことができるように、介護労働安定センターに依頼して研修会を開催するなど、職員の意欲向上と資質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給与水準や労働時間等の説明を行っている。接遇研修やチームワークについての勉強会も行い、職場環境の整備に努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内・グループ内への研修の参加や、外部研修への参加もできる体制を整え、実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 社協等が主催の交流会に参加しているが、時間が作れず、参加が難しい状況である。可能な時は様々な会に参加するように心がけたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーション技術の向上を図り、本人との信頼関係が築けるように努力している。自分から要望を伝えられないケースは、関わりの中で要望の把握をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用前に、面談等でアセスメントを行いニーズの把握に努めている。必要な場合は複数回の面談や電話連絡を行い、信頼関係づくりをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームへの入居の他、同法人のリハビリ等のサービスや老人保健施設の利用も検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 家事への参加や習字や塗り絵などを入居者と職員で一緒に行っており、残存機能を発揮でき、信頼関係の形成に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への連絡・報告をこまめにし、家族と相談しながら一緒に支援の方向性を決めている。必要時は家族の協力を得て面会の機会を増やしたり、外出をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得ながら、自宅へ外泊・外出をしたり、友人との面会や電話連絡ができる機会をつくっている。在宅での関係が継続できるようにしている。 (外部評価) 入居時にセンター方式を利用して、家族関係、よく行っていたお店、好きなことなど家族に記入してもらい、馴染みの関係を把握している。家族の協力でお盆とお正月の2回は外泊して家族だんらんの時を過ごしている。よく行っていた美容室や図書館、好きな列車を見に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はリビングで過ごし、入居者同士の関わりが持てている。ドライブの車中や散歩時等でも会話を楽しめている。入居者の個性を考慮し、座席の配置を気にかけて、対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、必要時には経過の支援をし、相談できる関係性を築くように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) プラン作成・見直しに合わせて意向の確認を行っている。聞き取り困難なケースに関しては、家族やスタッフ間で話し合い、出来るだけ本人本位に検討している。	
			(外部評価) 利用者毎の担当職員は、日頃から関わりを多く持つようにして思いや希望の把握に努めている。家族からは面会時を利用して情報を得ている。自分の気持ちを伝えるににくい利用者は普段の表情からくみ取るようにしている。把握した内容は申し送りノートに記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 在宅ケアマネジャーや入院先の病院等から情報収集を行い、入居前の生活状況の聞き取りに努めている。また、本人と家族との面接や自宅訪問も行い、生活環境の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居時の聞き取りの中で、一日の過ごし方については、十分とまでは言えないが、心身状態や有する力等の情報把握はしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内で担当者会議を行い、プラン作成をしている。家族が会議に出席することが困難な場合は、面会時や電話連絡にて意向の確認をしている。会議開催時外でも、職員間で相談検討しプランに反映できるようにしている。	
			(外部評価) 家族、担当職員、ユニットリーダーの参加のもと担当者会議を行い介護計画書を作成している。サービス実施状況が十分記録できるようバイタルチェック表に余白を設け、利用者の日々の様子を詳細に記載しモニタリングに生かしている。3か月毎の見直しを原則とし、大きな変化がない時は6か月、変化がある時はその都度見直しを行い、利用者の状態に応じて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子・課題判断・方針に分けてケア記録を記入しており、情報共有や介護計画の見直しに活かしている。記録漏れがないようにチェックしながら記入している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護タクシーの利用や出張理容店を利用している。その他にも支援サービスの多機能化を図っていきたい。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のスーパーに買い物に行ったり、公園や施設の利用をしている。ボランティア参加でのレクリエーションを行っているが、今後は種々の地域資源を広く活用できるように計画したい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月二回の往診にきてもらっている。内科面 でフォローが必要な方は追加で往診に来てもらって いる。必要時は受診もしている。同法人以外への受診に ついては、家族の協力にて受診している。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続している利用者は家 族が付き添い受診している。入居時に法人医をかかり つけ医に変更した利用者は、月2回の往診で健康管理 を行っている。診療情報は関係者が共有し安心がで きる。皮膚科は必要時に、また歯科医は定期的に往診が あり適切に医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師との連携はとれている。情報共有が出来るよ うに努力している。介護員が迷うような場合は都度相 談し指示をあおぐ。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の受け入れがスムーズにできるように、情報の 提供や支援を行っている。また、入院中も病院側との 関わりをもち、退院時の受け入れが出来るようにして いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族へ重度化や終末期の説明は行っており、病院の医 師や看護師、家族と相談しながら方向性を決めてい る。	
			(外部評価) 看取りについては入居時に重要事項説明書の記載に 沿って説明し、利用者や家族の意向や要望を確認して いる。看取り指針も作成している。今後は研修などに 積極的に参加し職員の理解を深め、看取りケアの充実 を図っていく予定である。	全体会やユニット会を活用して終末期のあり方や看取 り指針に沿って話し合いを行い、また内外の研修を重 ねて職員の不安軽減を図ると共に、利用者や家族の要 望に沿って安心して最期を迎えられるよう支援の取り 組みに期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応については、ホーム内研修を行っているが、全てのスタッフが十分に対応できるように研修内容を充実させていく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防・避難訓練を年二回実施している。また、地域との協力体制については、消防訓練時に町内会長や民生委員・近所の方にも参加いただいている。自主防災会の実施ができていないため、計画・実施したい。 (外部評価) 避難訓練を年2回、昼夜間を想定して消防署立会いのもと実施し、アドバイスももらっている。町内会長や民生委員、近所の方に参加してもらい、消火器訓練や担架の作り方と使い方の講習を行っている。備蓄品として水やご飯、惣菜などの缶詰を法人本部に保管している。	消防訓練を実施しているが、地域住民にさらに呼びかけを行い多数の参加のもと訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加して協力体制を築いてほしい。習得した担架を使って階段を下りてみるなど実効性のある訓練を望む。また備蓄品は事業所内に保管し緊急時に備えてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者のプライバシーを確保できるように心がけている。言葉かけの内容や、声の大きさ、対応方法は入居者により使い分けている。 (外部評価) トイレ誘導時は他の利用者に気付かれないように耳元で声かけし、リハビリやドライブに行く前にさりげなく声をかけるなど自尊心を傷つけない対応に努めている。個人情報が入っているUSBは金庫に保管し、ファイルは持ち出し禁止にするほか、利用者の話をする時はイニシャルで話し合うなど徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩や買い物、外出行事等は、本人に選択してもらえるように言葉かけや関わりを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペース、どう過ごしていくかを重要視し、趣味や日課などを行い、その人らしい暮らしになるよう心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 職員と入居者が話し合っ、着る服を決定している。自己決定が困難な方には、家族から情報収集、なじみの身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事形態や好き嫌い等、一人ひとりにあった食事を提供できるように努力している。後片付けを一緒に行っている。	
			(外部評価) 朝食と土曜日の昼食は業者に委託しており、それ以外は調理専門の職員を配置し調理を行っている。うどん、ラーメン、寿司、炊き込みご飯など利用者の好みを把握し献立に取り入れている。食事が楽しみなものになるよう対面式の調理場を設置して混ぜたり切ったり、配膳や片付けなど利用者のできることを職員と一緒にやっている。利用者の状態に合わせて刻み食、一口大にするなど食事形態に配慮し職員と一緒に楽しく食べることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 定期的な体重測定を行い、適切な体重コントロールが出来るように支援している。必要なケースについては水分量のチェックも行っている。好き嫌い、アレルギーを把握し、栄養摂取できるための工夫もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施し、職員の支援が必要なケースについては、口腔ケア介助している。また、治療が必要な方や口腔ケアを希望する方には、歯科往診にて対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、排泄リズムの把握に努め、トイレ誘導等をを行っている。出来る部分は入居者にしてもらえようように声掛けしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。運動機能の強化や失禁防止の体操を取り入れリハビリを実践している。夜間のみオムツ使用の利用者は、排泄パターンに合わせて対応しポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動、腹部マッサージ、水分摂取、センナ茶の飲用等を行っている。また、医師と相談しながら下剤の服用もし、コントロールしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番や午前・午後の希望については出来る限り意向にそった対応をしている。入浴回数に関しては、清潔を保持する為週3回の入浴と決めている。本人や家族の意見・希望があれば、個別に支援している。	
			(外部評価) 浴室は左右にスライドできる浴槽、シャワーキャリー、リクライニングシャワーキャリーを設置している。利用者の身体状況に応じて介助しやすく安全に入浴することができる。入浴は週3回を基本とし午前中に実施している。入浴剤を使用してその日によって色を変えるなど楽しんで入浴することができている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の習慣や体調に合わせて、休憩時間をもってもらえるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用等の説明書をカルテにはさみ、職員がいつでも見れるようにしている。また、服薬管理表を作成し、薬の変更や残薬管理ができるようにしている。薬の変更があった場合は、身体状況などを細かくケア記録に記録するように	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のしたいこと、行きたい所、食べたいもの等、日々の会話の中から引き出し、出来る限り実現できるようにしている。本人の出来ることは積極的にしてもらえるよう心掛けている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所への散歩、外出ドライブなど、可能な時は声掛けし外出の支援を行っている。家族の協力にて外出できている方もいるが、地域の協力ではまだ外出できていない。 (外部評価) 時候や天気に合わせて散歩に出かけ近くの神社で鳩に餌をやったり、アニメキャラクターの列車が通り過ぎるのを見たりしている。春には花見に出かけ、港や空港にドライブして外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物時の支払いを、入居者にしてもらおう事はある。本人の所持金は預かっていない。行事ごとで必要な場合は、金額は家族から頂くか、引き落としにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要な場合には、。電話をしたり、手紙のやり取りの支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節ごとの飾りつけや行事を行い、季節を感じてもらっている。また、掃除を行い、清潔な環境づくりをしている。	
			(外部評価) リビングは広く、机を配置して食事を摂るスペースとテレビを置きソファや畳スペースでくつろぐことができるよう分けている。窓ガラスを透明にして中の様子を見てもらい、中からも外の様子や季節の変化を感じることができる。また格子戸にして家庭的な雰囲気の中で家庭の延長として過ごすことができるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングのソファや畳、ダイニング席と、様々な自分の過ごしたい場所で生活出来ている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に置くものは、使い慣れたものや馴染みの物を持ってきていただく。家族写真やアルバムをもっている方もいる。	
			(外部評価) 居室は洋風のアール・デコ様式（幾何学的な近代建築）を取り入れ、入り口は廊下より一歩中に入っており居室の出入りに配慮されている。ベッド、エアコンが常備され、使い慣れたテレビ、タンス、ハンガーラック、椅子、籐家具などを持込み利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて配置し、居心地よく過ごすことができている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ、居室に張り紙や目印をつけて分かりやすくしている。個々に合わせて、シルバーカーや車椅子を使用し、自分で移動出来るようにしている。一人ひとりの状況把握に努め、必要な支援を心掛けている。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3890101037
法人名	医療法人 ミネルワ会
事業所名	グループホーム ミネルワ
所在地	松山市衣山5丁目717-1
自己評価作成日	平成 27 年 2 月 19 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 28 年 3 月 7 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・季節ごとの行事を取り入れている。 ・母体が病院のため、急変時は24時間体制で連絡できる。 ・歩行の時間、体操の時間、口腔体操、シナプソロジーなど、様々な体操を取り入れ身体機能の維持向上に努めている。 ・日常的な家事参加を入居者で行い、家庭的な雰囲気でも過ごせている。 ・工作や手作業(雑巾縫い・チラシでのゴミ入れ折り等)を行い、残存能力を活かしている。 ・ドライブに出かけ、外に出ることで気分転換や季節を感じることができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は開設して2年を過ぎようとしている。毎日、午後の時間を利用して歩行訓練や立ち座り、腕の上げ下ろしなどを行い身体機能向上に力を入れている。居室はアール・デコ様式(幾何学的な近代建築)を取り入れ廊下より一歩中に入口を設置し出入りに配慮している。窓ガラスを透明にして外部との遮断を取り除き、格子戸にして家庭的な雰囲気を作り利用者とのコミュニケーションを大切に家庭の延長として穏やかに過ごせるように、建物の至る所に思い入れを感じることができる。また認知症の進行を遅らせる方法を追求したい、認知症の観点から地域に対する情報発信力を強めたいと意欲的である。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム ミネルワ		
(ユニット名)	如月		
記入者(管理者)			
氏名	竹村 千秋	芳野 真季	
評価完了日	平成 28 年 2 月 19 日		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念を掲示している。職員に共有できるようにしており、月一回のミーティング時にも再確認できるようにしている。日々意識して実践できるように努めている。</p> <p>(外部評価) 開設時に代表者を含めた準備委員会により「今一緒にいるこの時間を大切に・・・」という理念を作成し、利用者の「今まで」「いま」「これから」を共有し利用者一人ひとりに寄り添った支援に努めている。毎月のミーティングで確認し合い、職員全員が共有して統一した方向性を持って実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 町内会の行事へ参加し、グループホームと近所の方とのつながりを持つように努力している。レクリエーション活動の提案などもして頂いている。</p> <p>(外部評価) 自治会に加入して回覧板で地域の情報を得て、盆踊りや秋祭り、年末の餅つき大会などに参加して地域との交流を深めている。また、ボランティアによる三味線、日本舞踊、水軍太鼓、マジックショーを楽しんでいる。玄関前の道路沿いの掃除をしたり、散歩に出て地域の方とあいさつを交わし交流している。今後は出前講座を開き認知症の情報を発信していきたいと考えている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 日々の入居者様の様子を、写真や広報誌などで運営推進会議などを通して見てもらっている。支援方法や生活の様子を伝えている。又、避難訓練など日時の呼びかけている。その他にもブログを随時更新している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 二ヶ月に一回の運営推進会議を行い、ホームでの活動内容や入居者様の様子を写真等を活用し報告している。会議で出た意見は職員に伝達し、積極的に取り入れるようにしている。	運営推進会議は定期的開催されているが参加者が固定化されている。多方面からの参加や多数の家族と地域住民が参加し、積極的な意見交換ができるよう取組みに期待する。また認知症に関する情報を地域に発信していきたいと考えており、議題を検討し実践できるよう取組みに期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は2か月に1回、町内会長、民生委員、介護保険課職員、地域包括支援センター職員、家族の参加を得て開催している。事業所から利用状況や活動報告を行い、それらに基づいて意見交換している。職員も交代で参加し転倒や打撲について報告し意見をもっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議に参加時には、行政の担当者と話す機会をもっており、相談できる関係づくりに努めている。	
			(外部評価) 介護保険課職員と地域包括支援センター職員は、毎回運営推進会議に参加し情報交換を行っている。生活福祉課職員は入居に関しての相談を行い、入居後の看取り対応などについて話し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 日中は、玄関・フロア入口とも施錠せず、出入りした場合はチャイムが鳴るようにしている。職員の見守りの強化で対応している。ベッド臥床時に転倒転落の恐れがある方には、センサーコールを使用。必要であれば衝撃吸収マットを使用している。	
			(外部評価) 身体拘束については入職時に研修を受ける機会を持ち、また外部研修に参加して禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解して、職員全員で身体拘束をしないケアを実践している。ことば遣いや名前の呼び方についても、信頼関係ができた上で職員間で検討することとしている。新聞に掲載されたあつてはならない福祉関係者の事件記事について他人事ではないどこでも起こりうることとして話し合っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 新人研修や勉強会にて、高齢者虐待についての理解を深め、意識統一が出来るようにしている。繰り返し研修することが必要である。ケースごとに対応方法の話し合いは行っており、発生防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 月一回のミーティングやホーム内・外部の勉強会に参加し、職員同士で話し合い制度の理解を深めていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結時には説明を行い、質問に答えるようにしている。改定等があった時は、文書での説明を行い、不明な点は面会時や電話で対応するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や電話、運営推進会議等で、家族の意見や意向を確認している。また、本人には日常の関わりの中で意向確認している。	
			(外部評価) 職員は利用者との日々の関わりの中で意見や要望を把握し、家族には面会時に声をかけて利用者の生活の様子や体調などを報告するとともに意見や要望を聞いている。聞き取った内容はミーティングで報告し職員間で共有している。年に1回、家族会を開催し家族間の交流や意見や要望を聞く機会としている。今後は避難訓練に合わせて家族会の開催を検討している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 管理者やリーダーは、職員とのコミュニケーションを積極的にとり、関係づくりに努めている。ミーティング時や個別で面談し、職員の意見や提案を聴いている。	
			(外部評価) 毎月、全体会やユニット会を開催し業務内容やケース内容について話し合っている。職員からの提案は、一定期間実施し評価して改善策を検討するなど積極的に取り入れている。内容によっては理事長や事務長に相談することができる。職員が安定して業務に就くことができるように、介護労働安定センターに依頼して研修会を開催するなど、職員の意欲向上と資質向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 入職時に給与水準や労働時間など話しをしている。職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。また、職員との個別面談を行い、情報収集に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ホーム内・外部の研修に参加できる体制を整え実践している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 松山市社協が主催の交流会への参加をしているが、時間がつくれず、参加が難しい状況である。できるだけ様々な研修会に参加できるように心がけたい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) コミュニケーション技術の向上に努め、日々の関わりから本人を知り信頼関係が築けるようにしている。ケースによっては本人の要望を十分に聞けない場合があるが、関わりの中で要望把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に施設を見学していただいたり、家族様の要望などよく聞き、入所時より関係作りに努めている、家族様面会時や電話の時にも、声かけを行い思い等を聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) グループホームへの入居だけでなく、その他のサービスの利用についても説明を行うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の残された機能・能力が最大限に発揮できるように、本人と職員間で話し合い、笑って過ごせる環境づくりを心掛けている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族への連絡・報告をこまめに行い、相談しながら一緒に支援の方向性を決めている。必要時には家族の協力を得て行事ごとを行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族の協力を得て自宅に外泊したり、友人との面会や電話連絡の機会をもっている。出来るだけ在宅での関係が継続できるようにしている。 (外部評価) 入居時にセンター方式を利用して、家族関係、よく行っていたお店、好きなことなど家族に記入してもらい、馴染みの関係を把握している。家族の協力でお盆とお正月の2回は外泊して家族だんらんの時を過ごしている。よく行っていた美容室や図書館、好きな列車を見に行くなど、馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日中はフロア(リビング)で過ごし、入居者同士の関わりが持っている。入居者の個性の把握に努め、座席の配置等も考え、円滑なコミュニケーションが取れるようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても、必要に応じて本人や家族の相談を受け、支援している。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) プランの作成・見直しに合わせて意向の確認を行っている。聞き取り困難なケースに対しては、自分や自分の家族に置き換え、家族や職員間で話し合っている。 (外部評価) 利用者毎の担当職員は、日頃から関わりを多く持つようにして思いや希望の把握に努めている。家族からは面会時を利用して情報を得ている。自分の気持ちを伝えるににくい利用者は普段の表情からくみ取るようにしている。把握した内容は申し送りノートに記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 居宅ケアマネや入院先の病院等から情報収集を行い、入居前の生活状況の聞き取りに努めている。本人や家族との面接や自宅訪問も行い、生活環境の把握をしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) センター方式を活用し、一日の過ごし方や趣味嗜好を把握できるように努めている。介護記録にできるだけ状況や話した内容を残し、職員間で申し送りをすることで現状把握を行っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ホーム内で担当者会を適宜行い、プラン作成している。担当者会に家族が参加できない場合は面会時や電話連絡時に意向の確認をとっている。ユニット内の職員と意見交換も行い、プランに反映させている。	
			(外部評価) 家族、担当職員、ユニットリーダーの参加のもと担当者会議を行い介護計画書を作成している。サービス実施状況が十分記録できるようバイタルチェック表に余白を設け、利用者の日々の様子を詳細に記載しモニタリングに生かしている。3か月毎の見直しを原則とし、大きな変化がない時は6か月、変化がある時はその都度見直しを行い、利用者の状態に応じて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 訴え・様子(客観的な情報)・課題判断・方針に分けてケア記録を記入しており、情報の共有やプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 介護保険のみのサービスにとらわれず、介護タクシーやヘルパー利用等をしているケースもある。出張理容店も利用している。話し合いの中で、必要であればサービスの紹介等も行っていく。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 近隣のスーパーに買い物に行ったり、公園や施設の利用をしている。ボランティア参加によるレクリエーションを行っているが、地域資源を広く把握し、充実に努めたい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 同法人から月二回往診に来てもらっている。希望・必 要な場合は、追加で往診をうけている。必要時には受 診も行っている。同法人以外への受診についても、本 人・家族の希望があれば、家族の協力のもと受診して いる。	
			(外部評価) 入居前からのかかりつけ医を継続している利用者は家 族が付き添い受診している。入居時に法人医をかかり つけ医に変更した利用者は、月2回の往診で健康管理 を行っている。診療情報は関係者が共有し安心がで きる。皮膚科は必要時に、また歯科医は定期的に往診が あり適切に医療が受けられるよう支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師との連携・情報共有は適宜行えている。また、 判断に迷うような事は、その都度相談し指示を受けて いる。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の受け入れがスムーズにできるように、情報の 提供や支援を行っている。また、入院中も病院側との 関わりをもち、退院時の受け入れが出来るようにして いる。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 受け入れの際は、重度化や終末期の説明を行って おり、病院の医師や看護師、家族と相談しながら方向性 を決めている。	
			(外部評価) 看取りについては入居時に重要事項説明書の記載に 沿って説明し、利用者や家族の意向や要望を確認して いる。看取り指針も作成している。今後は研修などに 積極的に参加し職員の理解を深め、看取りケアの充実 を図っていく予定である。	全体会やユニット会を活用して終末期のあり方や看 取り指針に沿って話し合いを行い、また内外の研修を重 ねて職員の不安軽減を図ると共に、利用者や家族の要 望に沿って安心して最期を迎えられるよう支援の取 組みに期待する。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ホーム内研修をして、急変時の初期対応、応急手当の方法等学んでいる。勉強会に参加していない職員には指導して実践力を身につけていく。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年二回の消防訓練を実施している。また、地域との協力体制づくりについては、消防訓練時に町内会長や民生委員等にも参加して頂いている。その他には自主防災会等の関係づくりをするように努めていく。 (外部評価) 避難訓練を年2回、昼夜間を想定して消防署立会いのもと実施し、アドバイスをもらっている。町内会長や民生委員、近所の方に参加してもらい、消火器訓練や担架の作り方と使い方の講習を行っている。備蓄品として水やご飯、惣菜などの缶詰を法人本部に保管している。	消防訓練を実施しているが、地域住民にさらに呼びかけを行い多数の参加のもと訓練を行うと共に、地域の防災訓練にも参加して協力体制を築いてほしい。習得した担架を使って階段を下りてみるなど実効性のある訓練を望む。また備蓄品は事業所内に保管し緊急時に備えてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者のプライバシーを確保できるよう心掛けている。言葉かけの内容や声の大きさ、対応方法などは入居者により使い分けている。 (外部評価) トイレ誘導時は他の利用者に気付かれないように耳元で声かけし、リハビリやドライブに行く前にさりげなく声をかけるなど自尊心を傷つけない対応に努めている。個人情報が入っているUSBは金庫に保管し、ファイルは持ち出し禁止にするほか、利用者の話をする時はイニシャルで話し合うなど徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 散歩や買い物、イベント参加等は、本人に選択してもらえる言葉かけや関わりを心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 全てを一人ひとりのペースで過ごすことは難しい。可能な限り希望にそった過ごし方を支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自分で選択することができる入居者には、職員と話しながら好みの服装が出来るようにしている。家族の協力にて美容室に行ったり、衣類を買いに行ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者の出来ることを見極めて、一緒に調理してもらったり、盛り付け・配膳・後片付け等をしている。ホットプレートを活用した料理・おやつ作りを実施している。	
			(外部評価) 朝食と土曜日の昼食は業者に委託しており、それ以外は調理専門の職員を配置し調理を行っている。うどん、ラーメン、寿司、炊き込みご飯など利用者の好みを把握し献立に取り入れている。食事が楽しみなものになるよう対面式の調理場を設置して混ぜたり切ったり、配膳や片付けなど利用者のできることを職員と一緒にやっている。利用者の状態に合わせて刻み食、一口大にするなど食事形態に配慮し職員と一緒に楽しく食べることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 十分な栄養摂取は出来ている。定期的に体重測定を行い、食事量の調節をしている。必要なケースについては水分量チェックを行っている。入居者の好き嫌いも把握し、摂取面で工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを実施し、職員の支援が必要な方には介助をしている。また、治療が必要な入居者や口腔ケアを希望する場合は歯科往診にて対応し、職員との連携もとれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を活用し、排泄リズムの把握に努め、トイレ誘導を行っている。排泄動作等、出来る部分は入居者にしてもらえるように声掛けをしている。	
			(外部評価) 排泄チェック表で利用者一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。運動機能の強化や失禁防止の体操を取り入れリハビリを実践している。夜間のみオムツ使用の利用者は、排泄パターンに合わせて対応しポータブルトイレを使用するなど、利用者に合わせて支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表にて排便状況を把握している。日頃より水分摂取、適度な運動を心がけている。便秘時にはセンナ茶か下剤を服用し排便のコントロールをしている。便秘が重度な場合は医師に相談している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴の順番や時間帯については、毎回相談して入浴している。週3回の入浴で、曜日も決めているが、本人の意向や健康状態によっては臨機応変に対応している。	
			(外部評価) 浴室は左右にスライドできる浴槽、シャワーキャリー、リクライニングシャワーキャリーを設置している。利用者の身体状況に応じて介助しやすく安全に入浴することができる。入浴は週3回を基本とし午前中に実施している。入浴剤を使用してその日によって色を変えるなど楽しんで入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望や体調によって、休息する時間をとっている。寝具は本人持参のものを使用し、週一回の寝具交換と布団乾燥をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効果、副作用等の薬表をカルテに挟み、職員がいつでもみれるようにしている。また、服薬管理表を作成し、薬の開始～終了の期間、残薬確認が出来るようにしている。薬の変更があった場合は、身体状況などを細かく介護記録にのこすようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人のしたいこと、行きたい所、食べたいもの等を日々の会話から引き出し、出来る限り実現できるようにしている。本人の出来ることは積極的に行ってもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近所への散歩やドライブに行くなど、可能な時は声掛けし外出支援を行っている。家族の支援をとおして外出する方はいるが、地域の協力での外出は行えていない。 (外部評価) 時候や天気に合わせて散歩に出かけ近くの神社で鳩に餌をやったり、アニメキャラクターの列車が通り過ぎるのを見たりしている。春には花見に出かけ、港や空港にドライブして外出を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の所持金の預かりは無いため、ホームの必要物品を買いに行った際に、入居者に職員に代わって支払ってもらえる時はある。家族に協力して頂き、所持できる方法を検討したい。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 必要な場合には、電話をしたり手紙のやり取りを支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 毎日共用空間の清掃を行っている。季節を感じられるように花を飾ったり、飾りつけをしている。温度・湿度計の設置にて、空調管理している。また、入居者の訴えや希望も参考にして環境づくりをしている。メダカとエビを飼育し、和んでいただいている。</p> <p>(外部評価) リビングは広く、机を配置して食事を摂るスペースとテレビを置きソファや畳スペースでくつろぐことができるよう分けている。窓ガラスを透明にして中の様子を見てもらい、中からも外の様子や季節の変化を感じることができる。また格子戸にして家庭的な雰囲気の中で家庭の延長として過ごすことができるよう工夫されている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) リビングにはソファが置いてあり、皆で過ごせるようにしている。和室もあり、少し離れて過ごす事も可能にしてある。ダイニング席では、手作業やテーブルが必要なレクリエーションを行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室に置くものについては、使い慣れた物を持ってきてもらうように説明している。家族写真や好きな物の写真を飾っている入居者もいる。また、愛着のあるぬいぐるみの持参もある。</p> <p>(外部評価) 居室は洋風のアール・デコ様式（幾何学的な近代建築）を取り入れ、入り口は廊下より一歩中に入っており居室の出入りに配慮されている。ベッド、エアコンが常備され、使い慣れたテレビ、タンス、ハンガーラック、椅子、籐家具などを持ち込み利用者一人ひとりの生活スタイルに合わせて配置し、居心地よく過ごすことができている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレ、居室に張り紙や目印をつけて分かりやすくしている。身体状況に合わせて、シルバーカーの使用等で、自分で移動できるようにしている。一人ひとりの状況把握に努めて、必要な支援ができるように心がけている。</p>	